

令和6年度 中間評価

学校名 湯梨浜町立羽合小学校

校長名 知久馬 和紀 印

1. 学校の教育目標

やさしく かしく たくましく
～仲間とともに 地域とともに 未来を切り開く子どもの育成～

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 落ち着いた生活の中で、「個」と「集団」の力を伸ばす。
- 育てたい（身に付けさせるべき）資質・能力が身につく授業改善を進める。
- 地域とつながり、地域に根ざした教育活動を充実させる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	中間評価	課 題 及 び 改善点
(1)心を耕し豊かな心を育む【やさしく】 ○あたたかい学級づくり ・児童アンケート ア「友だちは自分のいいところを分かっ てくれていると思う」 イ「自分にはいいところがあると思う」 A：肯定的評価 85%以上 B： 60%以上	B	<児童アンケート結果> ア 87.0% (A評価) イ 81.8% (B評価) ・「いいところみつけ」の取り組みを続けること で、自分や友だちのよさに気付ける子が増えて きている。 ・「いいところみつけ」の時間がとりづらかった り、見つける子や見つけられる子に偏りが見 られたりすることが課題。 ・今後は、月 1 回の席替えの際に隣の人や班の 人に「ありがとうカード」を渡す活動を取り 入れ、いいところを伝えたり、言ってもらっ たりする経験をみんなができるようにする。
○友だちとのよりよい関係の構築 ・児童アンケート ウ「誰にでも、自分からあいさつをしてい る」 エ「友だちをよぶときは、『さんづけ』をし ている」 A：肯定的評価 80%以上 B： 60%以上	B	<児童アンケート結果> ウ 70.0% (B評価) エ 85.5% (A評価) ・学年があがるにつれて呼び方が荒くなる子が 多い。また、その場にあった言葉遣いが難し い子もいる。 ・アンケートの結果を子どもたちに提示し、子 どもたちと一緒にどうすればいいか話し合い を行っていく。 ・あいさつを返す子が増えてきている。しかし、 「自分から」「誰にでも」という点にはまだ課 題がある。 ・あいさつマスターを継続する。

(2)未来を切り拓く資質・能力を育成する 【かしこく】 ○学習習慣と基礎基本の定着 ・算数科における単元テスト 「知識・技能」の得点率 A：低学年 90%以上 中学年 85%以上 高学年 80%以上 ・家庭学習の提出率（評価時期：各学年で1週間を決める。） A：90%以上	A	<算数科における単元テスト> 「知識・技能」の得点率 低学年：90.5%（A評価） 中学年：80.7%（B評価） 高学年：81.6%（A評価） ・また特別支援学級でも、児童の実態に合わせ、復習問題や計算練習、教具を用いて個に応じた学習に取り組むことができた。算数の学習に抵抗を感じている児童も前向きに学習に取り組みつつある。 ・朝学習の成果として、継続して取り組んできたことで児童は集中して学習に臨むことができ、計算の速さや正確性が確実に向上している。基礎基本を繰り返し練習し、定着を目指したい。 <家庭学習の提出率> 全児童：94.9%（A評価）
○児童が意欲的に学習参加する授業づくり ・児童アンケート 「ノートやワークシートに自分の考えを書いていますか。」 A：肯定的評価 85%以上 ・教師アンケート 「児童に問題を解くときに、線を引いたり、数や言葉を書きこませたりしていますか。」 A：肯定的評価 90%以上	B	<児童アンケート> 肯定的評価 86.7%（A評価） <教師アンケート> 肯定的評価 75.0%（B評価） ・アンケートの結果より、児童と教師の捉えにずれがあった。児童としては、ノートに「式や答え」を書いていることが「自分の考え」を書いているという認識であると考えられる。 ・教師としては、「式と答え」だけでなく「その理由」までしっかり書かせたいという思いと、前期は学習のルールづくりに重きを置いて学習に取り組んでいる実態があった。 ・後期は、児童に自由に自分の考えやその根拠を書き込むことができるよう指導していく。

(3)健康でたくましい心と体づくりを行う【たくましく】 ○基本的な生活習慣の定着 ・ぐっすりデー A：達成率 85%以上 ・健康アンケート 「ゲームやインターネットをするときの約束の有無」 A：達成率 80%以上	B	<ぐっすりデー> 達成率：77.7%（B評価） ・全体的に低い状況にある。 ・保健委員会を中心に、「ぐっすりデーやってみるデー」をして、児童の言葉で睡眠のよさを伝えられる活動をしていく。 ・授業や休憩時間にしっかり頭や身体を動かして、スムーズな入眠につながるよう学校の活動を工夫する。 ・家庭の実態が様々で、子どもの努力で寝る時間を調整できない場合があるので、学校の指導の仕方について検討の余地があると感じた。 <健康アンケート> 肯定的評価：87.2% ・校内放送で呼びかけをするとともにほわいふれあいデーの期間にはマチコミメールを活用して、保護者にも学校の取り組みを知らせる。
○あきらめず粘り強く身体づくりに取り組む児童の育成 ・がんばりカード 「目標にむかってねばり強くがんばれましたか。」 A：はい 90%以上 ・児童アンケート 「体育の学習で、目標を持ってねばり強く取り組むことができましたか。」 A：肯定的評価 80%以上	A	<児童アンケート> 肯定的評価：92.8%（A評価） ・どの学年でも特に水泳の学習で頑張れた。他の学習でも、目標にむかって粘り強く取り組む姿が見られた。 ・学年に応じて、持久走や縄跳びでもがんばりカードの活用を進める。 ・振り返りカードやわたしたちの体育の見取りを行い、運動に苦手意識を持つ児童の頑張りを認める。

(4)地域とともにある学校づくり【開かれた学校】 ○積極的な情報発信 ・保護者アンケート オ「学校は、参観日や各種たよりやホームページなどで、子どもたちの様子をよく伝えている。」 カ「私は学習参観や学校行事に、積極的に参加している。」 A：肯定的評価 85%以上 ○地域に学ぶふるさと教育の推進 ・単元計画に基づき、地域の人、もの、ことと深く関わる学習ができたかどうかで評価する。		A <保護者アンケート> オ 88.3%(A評価) ・昨年度同時期とほぼ同じ評価であった。今後も積極的な情報発信を継続したい。 カ 88.9%(A評価) ・昨年度同時期と比べ、5%以上高い評価であった。コロナ禍後、順調に学習参観や学校行事への参加が増えている。 B ・家庭科や習字の時間を中心にボランティアの方に協力いただいて授業を進めることが日常化されてきた。 ・ゲストティーチャー等の活用も各学年で進めている。 ・生活科や総合的な学習の時間など、単元計画に基づいて、町探検に出かけるなど、地域の人、もの、ことに関わる学習が進んでいる。
---	--	---

◎ 3 の「中間評価」の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である